

はじめに

本書は、『高嶺遺稿』における印度哲学（吉谷覺寿口授・天台四教儀）の部分に翻刻したものである。『高嶺遺稿』は、高嶺三吉（一八六二～一八八七）が帝国大学在学時に受講した講義内容を筆記した計七冊のノートであり、高嶺の一周忌の命日に友人から第四高等中学校へ寄贈された。現在は、金沢大学附属図書館に保管されている。筆記されている講義は、吉谷覺寿（一八四三～一九一四）による印度哲学の他、島田重禮（一八三八～一九九八）の支那哲学⁽¹⁾、榊俣（一八五七～一八九七）の精神病理学、解剖学及び生理学、フェノロサ（Fenollosa, E. F. 一八五三～一九〇八）、ノックス（Knox, G. W. 一八五三～一九一四）、ブッセ（Busse, Ludwig 一八六二～一九〇七）の哲学、審美学、社会学等である⁽²⁾。印度哲学は、次のように区分されている。

- 一八八六（明治十九）年九月二五日より（第一義～第三四義）
- 卷二 一八八七（明治二十）年一月二九日より（第三五義～第六二義）
- 卷三 一八八七（明治二十）年四月九日より（第六三義～第八二義）⁽³⁾

なお、翻刻にあたっては、原文を忠実に写すことに努めたが、読みやすさを考慮し、句点を補った。また、判読不可能な文字は□と表記し、誤りと思われる文字には注を付した。

(1) 町泉寿郎「幕末明治期における学術・教学の形成と漢学」(『日本漢文学研究』第十一号、二〇一六年)によると、その一部は井上哲次郎(一八五六—一九四四)による東洋哲学史の講義記録である可能性が高いと指摘されている。水野博太「高嶺三吉遺稿」中の井上哲次郎「東洋哲学史」講義」(『東京大学文書館紀要』第三六号、二〇一八年)には、その部分の翻刻がなされている。

(2) フェノロサによる哲学史の講義録は、池上哲司(監修・解題)・竹花洋佑・西尾浩二・朴一功(翻刻・翻訳・校閲)『フェノロサ「哲学史」講義』(二〇一三年)、村山保史(監修・解題)・竹花洋佑・西尾浩二・朴一功・Michael Conway(翻刻・翻訳・校閲)『フェノロサ「哲学史」講義』(二〇一六年)において、翻刻・翻訳がなされている。

(3) 高嶺が欠席したためか、第八一義の講義については筆記されていない。